

山形市野草園だより



ツタウルシの紅葉（ミズバショウの谷）



シラキの紅葉（ロックガーデン）



カツラの紅葉（友好姉妹都市ゾーン）



ヤマモミジの紅葉（吉林の庭）



バイカツツジの紅葉（マгноリア通り）

神無月は、紅葉の季節

7、8月の猛暑に引き続き、9月後半までの30℃を越す暑さには、人間ばかりではなく、木々もそうとうまいってしまったようです。ナラガシワやオオヤマザクラは9月の初めに落葉が始まってしまいました。

神無月に入り、朝夕の気温がぐっと下がり始めたので、やっと園内の植物も一息き、リンドウやシオンがしっかりとした青紫色の花を咲かせています。また、トチノキやドングリ、クリの実も落ち始め、秋の深まりを感じずにいられません。

これから木々の紅葉が進んでいき、サンシュユやクサギなど鮮やかな果実をたくさん観察することができるようになります。ひんやりとした秋の空気を胸いっぱい吸い込んで、西蔵王の自然の中を歩いてみましょう。みなさん、秋の一日を野草園で過ごしませんか。



10月・11月初旬の予定

◆開園時間・休園日

- 開園時間 午前9時～午後4時30分（入園は午後4時まで）
- 休園日 毎週月曜日 10月は、2日、10日、16日、23日、30日
*9日（月）は「スポーツの日（祝）」のため開園し、10日（火）が休園

◆野草園は SUKSK ポイント対象施設

- 期 間 野草園開園期間 4/1（土）～11/30（木）
- 内 容 専用のスマホアプリで二次元コードを読み取るかポイントシールを受け取ることで、500ポイント付与（1日1回まで）
《詳細は「山形市 健康ポイント スクスク」で検索》

◆ガイドウォーキング

- 実施日 毎週日曜日と祝日。
実施日は、1（日）、8（日）、9（月・祝）、15（日）、22（日）、29（日）
- 時 間 午前・午後の2回実施
①午前10時30分～11時30分 ②午後1時30分～2時30分
- 内 容 その日の見頃の場所・植物を案内（園内、自然学習センター前集合）
- 費 用 参加費無料 《ただし入園料300円（高校生以下無料）》

《第30回 野草園の魅力を探る写真コンテスト入賞作品展》

- 内 容 審査の結果入賞した「一般の部」・「小中学生の部」の作品を展示
- 期 間 10月15日（日）～11月23日（木・勤労感謝の日）
- 参加費 入園料込300円（高校生以下無料）

◆ガーデニング教室

- 日 時 10月7日（土） 午前10：00～正午
- 講 師 花のひこうき 戎野日出男 氏
- 内 容 冬に咲く花を使ったハンギングバスケット作り
- 対 象 先着15人 **（すでに定員になり申し込みは締め切っています）**

◆四季観察会（紅葉と木の実）

- 日 時 10/26（木） 午前9：30～正午
- 講 師 植物案内ボランティア 佐竹恵一氏、村上宏幸氏
- 内 容 紅葉と木の実を中心に観察
- 対 象 先着20人
- 参加費 資料代・入園料込500円（高校生以下200円）
- 申込み 10月5日（木）より 電話で野草園まで TEL023-634-4120



◆庭木の剪定教室

- 日 時 10月28（土） 午前9：30～11：30
- 講 師 樹木医 山田寛爾氏、伊藤 一氏
- 内 容 カエデなどの樹形を整える技法を学習
- 対 象 先着30人（抽選） ※当選者のみ、電話連絡します。
- 持ち物 剪定ばさみ
- 参加費 資料代・入園料込500円（高校生以下200円）
- 申込み 10月1日（日）から7日（土）まで 電話で野草園まで TEL023-634-4120

◆バードウォッチング

- 日 時 11月4日(土) 午前9:00~11:00
- 講 師 日本野鳥の会 山形県支部 細谷 千鶴子氏、吉村 晶子氏
- 内 容 野草園内での野鳥の観察
- 対 象 先着20人
- 参加費 資料代・入園料込 500円(高校生以下200円)
- 持ち物 双眼鏡(野草園でも貸し出しあり)
- 申 込 10月20日(金)より 電話で野草園まで TEL023-634-4120



◆紅葉を楽しむノルディックウォーキング

- 日 時 11月11日(土) 午前10:00~正午
- 講 師 テレマーク&マウンテンガイド IDEHA 石沢孝浩氏
- 内 容 園内の紅葉を楽しみながら、ポールを使ったエクササイズでのんびり、ゆっくりのウォーキング。ウォーキング終了後は、近くの湧水で沸かしたコーヒーでリフレッシュ。
- 対 象 先着15人
- 服 装 動きやすい服装、運動靴
- 参加費 道具代・入園料込2,300円(高校生以下1,800円)
- 申込み 10月20日(金)より 電話で野草園まで TEL023-634-4120

◆雪囲い教室(初心者向)

- 日 時 11月3日(金)、4日(土) 午前9:00~正午
- 内 容 雪囲いに必要な男結びの習得
- 対 象 先着20人
- 参加費 入園料 300円(高校生以下無料)
- 持ち物 剪定ばさみ
- 申 込 10月20日(金)より 電話で野草園まで TEL023-634-4120

◆カフェの営業・山野草販売 (自然学習センター)

- カフェやまぼうし
《営業》木曜・土曜・日曜 午前10:30~午後2:30
《メニュー》カレー、ピザトースト、サンドイッチ、バナナシェイク、コーヒー
- 山野草販売
《営業》土曜・日曜に販売予定(平日販売の場合もあり)

◆開花した花等の紹介

- 野草園のホームページから観察日記・インスタグラムをご覧ください。
園内の様子や開花状況等をお知らせいたします。
- ホームページ内の「植物検索システム」で園内の植物を検索できます。
検索できる植物を少しずつ増やしていく予定です。

▲野草園観察日記▲



10月のアルバム



秋の四季観察会



令和元年度写真展入選作品「錦秋」山川祐幸氏



「野草の丘」エノキの黄葉とヤマモミジの紅葉



ガーデニング教室



庭木の剪定教室



秋のひと時 どんぐりひろい

●●● 10月に見られる主な花・果実・紅葉 ●●●



センニチコウ(ヒコ科)

古く日本に入ってきた園芸用の草花で、熱帯地方原産の1年生草本です。茎の先に長い花茎をだし、その先に1個の球状の花をつけます。花は色のついた翼のある2個の小苞に包まれた多数の小花からできています。小花は普通紅色ですが、淡紅色、または白いものもあります。花が長持ちすることが名前の由来です。



ミヤギノハギ(マメ科)

高さ1.5m程の落葉低木ですが、草本のような性質も備えているので半低木ともされます。花は、葉腋に多くつき、長さ1.5cm程になる紅紫色の蝶型花です。枝がとても柔らかく、地面に着くほど枝垂れているのが特徴です。葉はマメ科に普通に見られる三出複葉で、小葉は円形に近い楕円形、長さ3cm前後です。宮城県の県花になっています。



フジバカマ(キク科)

奈良時代に中国から渡来し、本州の関東地方以西、四国、九州などに自生する多年草です。葉は短い柄があり対生し、長楕円形～長楕円状披針形でふつう3深裂します。頭花は淡紅紫色で5個の筒状花があり、それが散房状にたくさんついています。秋の七草のひとつですが、野生で見られることは少なくなっています。



リンドウ(リンドウ科)

秋の山を代表する多年草で、根茎は細く、葉は緑色で縁には細突起があってややざらつきます。茎の頂き、または、上部の葉のわきに青紫色の花を開きます。花は鐘状で5裂し、裂片の間にはさらに副裂片があります。エゾリンドウが湿地に生えるのに対して、本種は山野に生えます。



エゾリンドウ(リンドウ科)

福井県以北の山地帯から亜高山帯の湿地に生える多年草です。茎の中・上部の葉は対生、まれに3枚輪生します。青紫色の花は茎の先や葉の腋につけ、筒状鐘形で5裂します。切り花用に栽培され、さまざまな改良型がみられます。高山型で、主として茎頂のみに花をつけるものをエゾオヤマリンドウといいます。



オオミソソバ(タデ科)

山地あるいは原野の水辺に生える1年草で、茎の上部は直立し下向きの刺があります。葉は有柄で互生し葉身は鈍形、ミソソバより大型で毛が多いようです。枝先に白色または淡紅色の小形花を数個つけます。葉の付け根部分にある托葉が目立ち、葉柄部分に翼があることでもミソソバと見分けることができます。



ヒガンバナ(ヒガンバナ科)

人里に近いところに群生する多年草です。ラッキョウ型の鱗茎が地下にあり、外皮は黒色です。秋の葉がない時に鱗茎から茎を1本出し、その先に有柄の花を輪状につけます。花被は6片で細長く外側に反り、へりは縮れています。雄しべ6本と雌しべが1本長く出て花被と同色です。秋の彼岸頃に花が咲くことが名前の由来です。



ノコンギク(キク科)

山野のいたるところに生える多年草で、地下茎を伸ばしてふえます。茎はよく枝分かれし短毛が密生し、葉の両面にも短毛が生えざらつきます。花は、中心に黄色の筒状花が多数あり、まわりに淡青紫色の舌状花が1列に並びます。特に紫色の濃いものが選別されて、紺菊(コンギク)として観賞用に流通しています。



ゴマナ(キク科)

山野の日当たりの良い所に生える多年草です。草丈が1~1.5mで、茎や葉に細毛があり触るとざらつきます。茎の上部で散房状に枝を分け、白い小菊のような花を多数付けます。白い花弁は舌状花で、中心の黄色いところが筒状花の集まりです。葉が“胡麻”の葉に似ていることが、名前の由来です。



ヤクシソウ(キク科)

山野に普通に生える2年草です。葉は薄く、基部で茎を抱きます。枝先に多数の花を付けます。頭状花は全部黄色の舌状花からなり、花期が終わると下を向き、黒っぽい総苞と白い冠毛が目立ちます。名前は、葉の形が薬師如来の光背に似ること由来すると言われてはいますが、他の説もあります。



クサギの果実(シソ科)

日当たりの良い山野の林縁に生える落葉の小高木で、芳香のある白花を多数つけます。花の後、萼はきれいな濃紅色になり、深裂して星状に開き、中央に藍色の果実をつけます。まるで花のような果実です。花も果実も綺麗なのですが、名前は「臭木」です。葉に臭気があることが名前の由来です。



ムラサキシキブの果実(シソ科)

山野の林内や林縁に生える落葉低木です。葉は対生で、形は長楕円形、先が尾状にとがり基部は狭いくさび形です。夏に淡紅色の小さい花をたくさんつけます。花も美しいですが、果実もまた、紫色でとても美しく見えます。果実は、葉が落ちた後も枝に長く残っています。



キタマムシグサの果実(サトイモ科)

真っ赤な、まるでトウモロコシの様な形の果実です。少々気味が悪いほどの外見と赤色で、毒々しい印象です。初夏には、緑色の蛇が鎌首を持ち上げたような形の花を咲かせていました。マムシグサは全草に毒性があり、特に、球根の毒性が強く、汁が皮膚に付くと炎症を起こします。**誤って食べると、死に至ることもあります。**



カンボクの果実(ガマズミ科)

主に北日本の山地に生える落葉低木です。葉は3つに裂け、初夏に、白いガクアジサイのような両生花と装飾花を咲かせます。秋には、真っ赤な果実を多数付けます。とてもおいしそうに見えますが、つぶしてみると強い臭気があります。そのためか鳥も食べず、葉が落ちた後も、春まで実が残っています。



ナナカマドの果実(バラ科)

真っ赤な紅葉が美しい木のひとつです。小さな葉が羽のように並んで1枚の葉を構成する羽状複葉で、鮮やかな赤色に紅葉します。赤い果実は葉が緑色の頃からつけ、葉が落ちてからも枝に残ります。果実は、冬に鳥の餌となります。

山形市の木に制定されています。



サンシュユの果実（ミズキ科）

中国原産の落葉高木で、江戸時代に薬用植物として渡来しました。春、葉が開く前に淡黄色の小さな花をたくさんつけるので「春黄金花」と言われます。秋は果実が赤く熟すので「秋珊瑚」という別名もあります。果肉を乾燥したものを強壯、強精などの薬用に、果実を果実酒に利用します。



カツラの黄葉（カツラ科） 《甘い香り》

カツラの木が黄葉し、落葉すると周りには甘い匂いが漂います。木の周りには黄色や茶色のハート形の落ち葉がたくさんあり、その落ちた黄色の葉が茶色になり始めると砂糖をこがしたような香ばしい匂いを出すためです。綿菓子のような匂いとか、みたらし団子のような匂いとか言われています。



シュウメイギク(キンポウゲ科)

人里近くの林縁などに生える多年草です。古い時代に中国から入ってきた栽培品種で中国では秋牡丹と言われていたようです。美しいので、よく庭などに植えられています。花は多数の花弁状の萼片からなり、実は花弁はありません。秋に菊によく似た花をつけることが名の由来ですが、菊ではなくアネモネの仲間です。



台湾ンホトトギス(ユリ科)

沖縄県などの亜熱帯地域の山地や森林の湿った場所に自生し、高さは30~50cmになります。和名は、斑点が入る花を、鳥のホトトギスの胸の模様に見立てたことに由来します。園芸用に品種改良されたものが多く栽培されています。



シオン(キク科)

山間の草地に生える多年草で、庭にも植えられます。茎は高さ1.5~2mで直立し、葉とともに毛があります。秋に淡紫色の舌状花と黄色の冠状花からなる頭状花序をつけます。鬼の醜草（オニノシコグサ）、十五夜草（シュウゴヤソウ）、思い草（オモイグサ）などの別名があります。



ニシキギ（ニシキギ科）の紅葉

山野の林縁に生える高さ1～3mの落葉低木で、枝に薄板状のコルク質の翼が矢羽根のように張り出すのが特徴です。葉は、マユミやツリバナよりも小さいです。葉腋に淡黄緑色で小さい目立たない花を数個つけます。美しい紅葉を錦に例えたことが、名前の由来です。紅葉がきれいなので生け垣などに使われることも多いようです。



アブラツツジ（ツツジ科）の紅葉

山地に生えよく枝分かれする落葉低木です。葉は枝先に輪生状に集まってつき、倒卵形です。6月頃枝先に淡緑色の花を繸状につり下げます。ドウダンツツジの仲間は鮮やかな赤色に紅葉します。そのひとつが本種です。葉の裏に光沢があり、油を塗ったように見えることが名前の由来です。



ヤマモミジ（ムクロジ科）の紅葉

北海道や日本海側に多い落葉小高木です。葉は対生で、掌状に深く5～9裂し、縁は重鋸歯になっています。園内で最も多いカエデです。紅葉は葉が赤くなるもの、黄色くなるもの様々あり、変異の多い樹木です。



メグスリノキ（ムクロジ科）の紅葉

高さ10mにもなる落葉高木です。樹皮を煎じて洗眼に用いたので、メグスリノキと呼ばれています。対生する葉は三出複葉で、小葉は5～10cmの長楕円形です。春、枝先に付く白色花はあまり目立ちませんが、秋は見事に紅葉します。よく見ると葉柄などに細かい毛が密生します。



アカシデ（カバノキ科）の黄葉

山地や平地に生える落葉高木です。初夏に開花し、果穂は長い柄で垂れ下がり、ややまばらに苞が付きまします。苞は葉状で3裂し、小さい果実を包みます。名前の由来は、新芽が赤く、花穂の垂れる様子がしめ縄に垂れる紙（紙垂：しで）に似ていることによります。シデ類の中では最も紅葉が鮮やかです。